

## 名古屋市北区「ソーネみんなでごはん」

### 2021年3月30日子ども食堂報告

2021/5/1 中京大学 成ゼミ4年 c318079 藤本涼花

開催地：ソーネおおぞね内(北区山田2-11-62 大曽根住宅1棟1F)



開催日時：偶数月の最終火曜日 17:00～(無くなり次第終了)

参加費：子ども(18歳まで)無料、大人200円以上のカンパ

3月30日の弁当：まぜごはん、から揚げ、ゆで卵、枝豆



今回の大まかな流れ：こどもっと食堂メンバーと見学→弁当盛り付け→会場設営準備→待機→食品配布→会場撤去作業

3月30日(火)、ソーネみんなでごはんにボランティアとして参加した。今回はメインの弁当配布(販売)と、お土産用のパントリー配布のダブル開催だった。本来は10:00から準備開始だったそうだが、私は14:30から参加した。サポーターは10人ほどおり、小学生高学年くらいの子どものボランティアもいた。それぞれ調理班、盛り付け班にわかれて作業が進んでいた。

実はこの日は、見学にと、こどもっと食堂のメンバー6人ほどを連れてソーネさんへ伺った。メンバーは、代表の李さんや清川さんに質問攻めしていた。弁当配布の流れや調理等の質問が多かった。改めてこどもっとのメンバーは熱心でパワフルな面々揃いだと感じた。李さんはカフェ店長ということもあり、調理関係の質問にはすらすら答えておられた(米が〇gに対し水は△Lにするとご飯が〇〇g炊ける、鍋はこの大きさが使いやすい等)。さらにソーネさんのご厚意で、いくつか新品のしゃもじまでいただいた。清川さんが「使わないから」とくださったものだが、ちょうど私たちこどもっとも、しゃもじを欲しかったタイミングだったため、大変ありがたかった。あくまでもメンバーは見学のみだったため、30分ほど滞在してすぐ帰っていった。

それからすぐ私は、弁当の詰め込み作業に取りかかった。が今回は、全体の行程がスムーズに進んでいたようで、私は弁当箱パックを並べるだけのかかなり補助的で単純な作業をした。



ソーネさんは、主に厨房内の李さん、厨房外の清川さんを中心に見事な連携で500食近くの弁当を作る。今回は正規の弁当が約450食、足りないおかずを他のもので代用して作った弁当が約50食ほどになった。私たちボランティアは、後者の弁当を謝礼としてもらえることになっている。加えて、パントリーで配布するもの一式ももらえた。アルファー米、お菓子、ペットボトル飲料、冷凍ケーキだった。

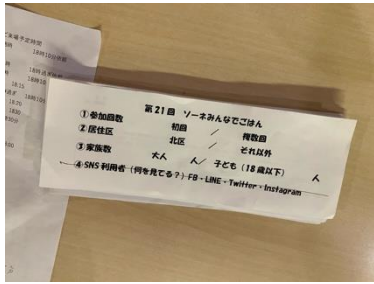


ちなみにソーネおおぞねは、集合住宅の1棟にてカフェやショップ、イベントホールなどが集まった複合型施設である。ソーネさんには、カフェ経営するための広い厨房とカフェスペースがある。子ども食堂を行うにあたって恵まれた環境を持つ。500食分を作り上げる根底は、この厨房にあることは容易に理解できる。実際にこともつどのメンバーも、この広々とした厨房に入れてもらい、非常に驚いていた。



弁当の詰め込み作業が終わったのは、16:00頃だった。配布開始17:00までだいぶ時間が余った。そのまま流れて、パントリーや弁当配布をしやすいようにテーブルを動かすなどして配布準備を行った。私はお菓子、ケーキ類を配布する係になった。

配布開始20分前には、会場外に長い行列ができていたそう。そして17:00には、入口で受付を済ませた利用者達が配布場所まで来だした。受付書は以下のものを使用している。欲しい弁当の分だけの注文をできるようになっている。



実際に私は利用者にパントリーの食品を配布した。利用者達は事前に大きめの袋を持ってくるよう言われていたようで、持ってきてくれた袋に食品を入れた。希望者には10円でビニール袋を譲ることはなかったが、1人しかいなかった。利用者は食品をもらったら次に弁当ももらい、会場をあとにするという流れだった。代表者1人(または2人)が4~6人分の弁当をもらいにきているケースが多かった。子どもを連れた親、高齢者など様々な世代の利用者が訪れた。1人来ていた子もいた。最終的に1時間ほどで弁当全てを配布してからは、レトルトカレーとパックごはんの配布に切り替えた。パントリー食品類はまだストックがあったので継続して配った。



配布も終わりがけたタイミングで、机を元あった場所に動かすなどして会場の撤去作業を行った。同時並行で、事前予約した利用者への配布も別ブースで行っていた。清川さんに、弁当配布をする上で何か困っていることがあるか尋ねたところ、棚の商品を無断で持っていってしまう利用者がいたため以下写真のように、ネットを被せるようになったと教えて



もらった。

ソーネさんが子ども食堂から弁当配布へシフトチェンジして1年経った。弁当配布とパントリーが定着しているように思う。またソーネに参加できる機会があれば参加したい。

## 11月14日 子どもカフェまんぷく参加報告

植野航史

日時：2020年11月14日（土）13時～16時

会場：旭ヶ丘交流館

参加者：約8名（スタッフ8名、社協の方1名）

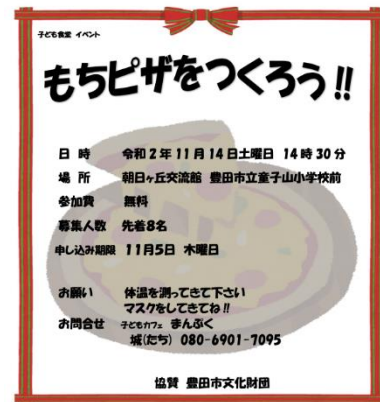
当日の流れ：集合→会場準備→調理開始→食事→片付け→振り返り→解散

メニュー：もちピザ（お餅、玉葱、ベーコン、コーン等）

旭ヶ丘交流館での食事の許可がおりたため、調理実習型の子ども食堂を開催した。旭ヶ丘交流館の調理室では、調理器具はもちろん、コロナ対策をしっかりと行っているため使用できることは大変ありがたいことである。コロナ対策を行っている会場は入場制限により、参加者は8名となったため、事前に予約した方のみ参加となった。また参加者を募りすぎてもいけないため、小学校や回覧板などで地域へ参加を呼びかけることはできなかった。参加者は全員外国の方で、親子で参加される方もいた。食材は、スーパーのやまのぶから寄付をいただいた。

コロナ禍前に開催した調理実習型の子ども食堂では、全員が作り終えてから同時に食べ始めていたが、今回はもちピザが焼き上がり次第それぞれが食べ始める形となった。会場は調理台が4つあり、1つの台に1つのホットプレートを用意し、参加者2名とスタッフ2名で調理を行った。1人分の食材をそれぞれ小分けにして準備し、自分の食べるものは自分でトッピングをして食べるという形で食事をした。もちピザを初めて食べる方も多く、好評だった。子どもカフェまんぷくが子ども食堂を再開するのは約9ヶ月ぶりであったため、準備不足や段取りを忘れており、バタバタする場面も多かったが無事活動することができた。

定期的にフードパントリーは活動しているが、子ども食堂の方も定期的に活動していきたい。また恵方巻きづくりやバレンタインのお菓子作りなども今後計画をしているため楽しみにしていきたい。



## 名古屋市北区「ソーネみんなでごはん」 2020年10月27日子ども食堂報告

2020/10/30 中京大学 成ゼミ3年 c318079 藤本涼花

開催地：ソーネおおぞね内(北区山田2-11-62 大曾根住宅1棟1F)

開催日時：偶数月の最終火曜日 17:00~19:30(無くなり次第終了)

参加費：子ども(18歳まで)無料、大人200円以上のカンパ

10月27日の弁当：五目ごはん、かぼちゃのサラダ、はんぺん



今回の大まかな流れ：パントリー袋詰め→弁当盛り付け→会場設営準備→食品配布→会場撤去作業→解散

10月27日(火)、ソーネみんなでごはんに初めてボランティアとして参加した。今回はメインが弁当配布(販売)、パントリーがおまけの形式だった。本来は10:00から準備開始だったそうだが、キムさんと私は14:30から参加した。サポーターは15人ほどおり、主に調理班、盛り付け班、袋詰め班にわかれて作業が進んでいた。

会場に着いてすぐ私たちは早速パントリーの袋詰めの手伝いにとりかかった。実習に来ていた日本福祉大学の学生1人も袋詰めしていた。お菓子や野菜、飲料からそれぞれ2つずつを袋詰めした。大人子ども問わず、利用者1人ひとりに配布するものだった。

ちなみにソーネおおぞねは、集合住宅の1棟にてカフェやショップ、イベントホールなどが集まった複合型施設だった。特にカフェスペースは普段からお客の出入りもあるようで、「広く新しく綺麗な施設」というのが私の率直な感想だ。



大曾根住宅



会場の様子

1時間ほど袋詰めしてからは、16:30過ぎまで、配布する弁当のおかず盛り付けに加わった。ゴム手袋をしてプラスチック容器へかぼちゃサラダやはんぺんの盛り付けをしたのち、セロテープで留める作業だった。配布開始の17:00前には、パントリーや弁当配布をしやすいようにテーブルを動かすなどして配布準備を行った。



弁当の盛り付け作業の様子



フードパントリー(配布前)

17:00 ちょうどに利用者が来だした。私たちは利用者に袋詰めした食品を手渡しした。すでに利用者は受付を済ませ、弁当の必要数が表記された受付票を持っており、受付票をもとに食品配布をした。利用者は食品をもらったらすぐ弁当ももらい、会場をあとにするという流れだった。代表者1人(または2人)が4、5人分の弁当をもらいにきている利用者が目立った。7人分ももらいに来ていた利用者もおおろ驚いた。ほとんどの利用者が弁当や食品を持ち帰るためマイバッグ、トートバッグを所持していた。子どもやその親、高齢者など様々な世代の利用者が訪れた。元々、ソーネおおぞねは地域のだれもが出入りしやすい場所を目指しており、この子ども食堂はどちらかといえば地域食堂に近いようだ。

最終的に30分ほどで弁当のほとんどを配布し、徐々に利用者も途絶えた。同じタイミングで弁当より先に食品が尽きてしまい、代わりにパック卵や乾燥パスタ、お菓子を配った。袋詰めをしている際に運営者の清川さんから伺った、「毎回400食を30分も経たないうちに配り終えてしまう」というお話通りであった。後日、メッセージで清川さんから、「ボランティアを除き、506食を配布した」と連絡をいただいた。500食超えは今月が初めてだったという。そして、利用者がどんどん増えていくのは有難いことだと思いつつ同時に、より細やかな配慮を本当に必要としている人へ届けることができないことが気がかりだそう。

配布も終わりかけたタイミングで、机を元あった場所に動かすなどして会場の撤去作業を行った。



会場撤去後も受付・配布スペースを確保し、遅れてやって来た利用者へ弁当配布を続けた。

その後実際に代表の李さんからお話を伺える機会があった。私は、通常の子供食堂はまだ開かないのか聞いたところ、開きたい気持ちも山々だが、開くことにリスクを負いたくない

いというサポーターが何人かいるため、この先も弁当配布を継続するそうだ。また、私が「普段はカフェをされていることもあって、キッチンが広いですね」と発言したところ、カフェ営業時は障害を持った調理師スタッフもキッチンに入るので、キッチンスペースを広い作りにしたのだと李さんが教えてくださった。

さらに、李さんのお話によれば、仕事帰りの大人にも利用してもらいたいが、難しい状況が続いたという。来場してくれた時点ですでに弁当は完売してしまっていたり、開始時間を遅らせてみたら今度は全体の利用者が減ってしまったりで、現在は開始時間は17:00で落ち着いているようだ。

自分の通うわいわい子ども食堂の利用者は、コロナ前の通常の子ども食堂で150人、コロナ禍のパントリーでも150世帯と、わいわいは県中でもマンモス子ども食堂だと思っていた。しかし、今回参加したソーネみんなごはんは、わいわい以上に利用者が多く非常に驚いた。かなり大規模なソーネでも、繁盛している反面でいくつか課題点も見られた。コロナ禍における愛知県の子ども食堂の実態調査にて、さらに詳細を明らかにしていけたら良いと思う。またソーネに参加できる機会があれば参加したい。

## 子どもカフェまんぷく 参加報告

植野航史

日時：2020年9月26日（土）午前10時～12時30分

場所：豊田市民文化会館周辺地区

スタッフ人数：10人

今回は、10月18日に子どもカフェまんぷくが企画している“わが街 探検隊”で当日歩くコースの下見や安全確認を行なった。当日と同様に約5kmのコースを2時間かけて歩き、ルートの確認や情報収集をした。実際に歩くことで細かな情報を得る事ができ、小坂地域の土地勘を養うことができたのではないと思う。この企画のチラシは9月20日に回覧板で回し始めたため、まだ応募の申し込みは無いようだが、締め切りの10月10日までに参加者が増えることを期待して待ちたい。回覧板で回したチラシには、目的、開催場所、開催日時、対象年齢、参加費、参加景品、コース内容、備考などが載っている。次回の活動では、買い出しや最終確認を行い、準備を進める予定である。

（当日の集合場所である豊田市美術館の噴水前（右）と洞泉寺（左））



子どもカフェまんぷくの子どもの食堂の活動は、参加者の多くが小学生である。以前、参加した際は15名ほどの地域の小学生の子たちが参加していた。当企画の対象者も小学生とその保護者であるため、過去に参加していた子どもたちが参加してくれると嬉しい。しかし、コロナウイルスやインフルエンザウイルス感染への懸念から参加する方が少ないのではないかと予想されており、企画倒れにならないかと心配の声もあがる。このコロナが終息していない時期に新たにイベントを企画し、参加人数を集めるのは難しいのかもしれないと感じた。また覧板や豊田市民文化会館にチラシを掲示するといった広報活動だけでは参加者の目にも止まりにくいかもしれない。

子どもの食堂の活動は、活動拠点とは別の広い場所をお借りして開催していたため、今後も会場



の許可が降りなければ利用することはできない。子どもたちと一緒に調理や作業をする教育実習型の活動にこだわっているため、子ども食堂が開催できないとなると、今後はフードバンクと屋外で行うイベント企画の二本立てになってくると考えられる。豊田市は比較的裕福な家庭が多く、生活困窮者や食の支援が必要な方を対象とするフードバンクにも難しい点がある。しかし一部の家庭や豊田市在住の外国人の中には食に困っている方が存在している。支援が必要な方とどのように出会い、どのように支援していくのか。社協や民生委員、小学校教師、地域施設の関係者、知り合いなど様々な人との連携や情報交換、つながりが重要となってくる。つながりや関係性を構築する方法を今後も模索していく必要がある。

## こどもカフェまんぷく

2020年9月12日フードパントリー・スタッフ会議参加報告

植野航史

開催地：豊田市民文化会館

開催日時：9月12日（土）午後14時30分～16時頃

スタッフ人数：10人（学生3人）

活動の大まかな流れ：集合→準備→配布→スタッフ会議→片付け→解散

会場の豊田市民文化会館の展示室Bをお借りして活動を行った。豊田市民文化会館では、入り口のアルコール消毒、モニターによる検温、会場の人数制限などのコロナ対策を行っており、安心して利用できる施設となっていた。



(会場の人数制限とコロナ対策の張り紙)

(検温するモニター)

今回のフードパントリーでお渡しした家族は、フィリピン人の家族一組だけで、お母さんと小学生くらいの男の子と女の子が受け取りに来られた。会場のカウンターのような場所でお渡しをし、お渡ししたものは全てフードバンク愛知から頂いたものである。中身は、グミなどのお菓子やインスタントスープである。お渡ししたものの種類は少なかったものの、たくさんのお菓子里に子どもたちは喜んでいる様子であった。簡単な会話であれば日本語でコミュニケーションをとることができるため、お渡ししたものの中身の説明や今後の予定を簡単にお伝えした。フィリピン人の家族は、こどもカフェまんぷくが気にかけている家族でもあり、今後も継続的に支援が必要だと考えている。今回のフードパントリーはフィリピン人の家族へのお渡しを終え終了した。



(配布をしたカウンター)

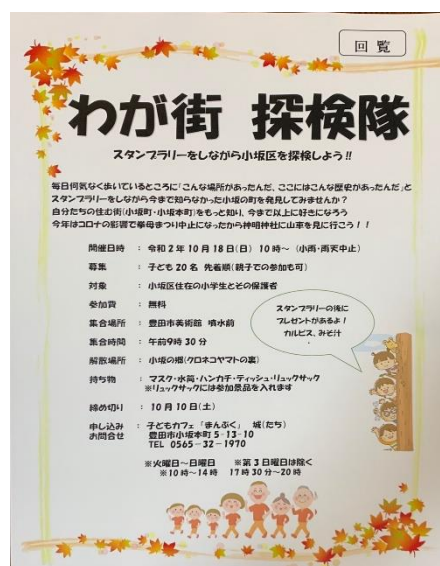


(配布物)

フードパントリー終了後、直近で開催する活動の打ち合わせを行った。今後の活動についての打ち合わせは事前に行っており、前回のその会議にもお邪魔させていただいたため、スタッフとして今回の会議に参加した。こどもカフェまんぶくが直近で開催予定の活動は、“わが街 探検隊”である。この活動は、豊田市小坂区を子どもたちと一緒にスタンプラリーのような形で歩いて回り、自分たちの住む街の新たな場所の発見や歴史を発見しようという街探検である。今回はその活動の打ち合わせを行った。日時や募集人数、参加対象者、探検ルート、周知の方法、参加景品などを細かく話し合った。次回のスタッフ会議では、当日探検するルートの安全確認や下見を行うとし、解散した。



(探検する仮のコース)



(回覧用のチラシ)

<振り返り>

スタッフの方々とお会いするのは今回が4度目で、顔を覚えていただけている様子であったため、フランクな形で参加させていただいた。まんぷくの活動には、地域の方、学生、社会福祉協議会の方、豊田市民文化会館の方、スタッフの娘さんなど様々な方が参加されている。まんぷくの活動には地域の人と人とのつながりを感じる場面が多い。今回、会場で豊田市民文化会館を使用したのも、前回のスタッフ会議に参加されていた豊田市民文化会館の館長さんが是非会場として使って下さいとのお声をいただいた事が理由の一つである。また、分かりやすい場所の方がフードパントリーの配布物を取りに来やすいとの理由もある。こどもカフェまんぷくの活動拠点は、代表の城（たち）さんが経営するお店であり、打ち合わせや会議以外の子ども食堂やフードパントリー、イベントを行うには広い会場をお借りするしかないため、今回、豊田市民文化会館を使用させていただけたことはとてもありがたいことであった。フードパントリーに関しては、お渡しする家族は一組ではあったが、お渡ししたい家族に渡せたため、良かったと城さんは仰っていた。フィリピン人の家族が受け取りに来られた光景を見て、フードパントリーなどの食の支援を必要とする方は日本人だけではないことを感じる事ができた。言葉や文化の違いがあるものの、食生活に困っている方をターゲットとするのであれば、その支援は必要な方に届かなければ意味がないと感じた。

わが街探検隊の活動に関しては、こどもカフェまんぷくの独自の活動ではないかと感じている。子ども食堂参加者と会場の中で何かイベントを行うことはあっても、実際に会場を離れて行う活動はなかなか無いため、私自身も楽しみにしている活動である。こどもカフェまんぷくは教育実習型の子ども食堂であり、こどもたちとお好み焼き作りをしたり、郷土料理や伝統行事の料理を作ったりしている。以前私が参加した活動では、ひな祭りのひしもち（おこしもの）を子供たちと作り、大きなカルタ取りをして遊んだ。次回のわが街探検隊は、コロナを配慮した教育実習型の活動であると捉えている。スタンプラリー終了後は参加賞として食料やお菓子などを配布する予定である。また12月には凧づくりの活動も企画している。

こどもカフェまんぷくのフードパントリーは名古屋の子ども食堂と異なり、受け取りに来られる配布対象者の中に生活困窮者に該当する方がいれば良いというばら撒きのような形ではなく、困っている人に届けたい精神が強い。その分、生活困窮者や食生活に困っている方との出会いが難しいのも事実である。豊田と名古屋の子ども食堂には、規模や考え方が異なる部分も多く、絶対数の違いもあるため、新規で支援が必要な方に物資を届けることは容易では無いと感じる。またわが街探検隊の活動は、他の子ども食堂でも活用できる部分もあると考えられる。こどもカフェまんぷく以外の子ども食堂では、従来の子どもの食堂で行っていた活動をどう対策して実現しようかを考えている。例えば、コロナにより希薄された居場所感を強めるため、短時間の接触の中で満足度を高める工夫に力を入れている。また、とりあえず子ども食堂を再開したいと活動を始め、居場所や交流の場としての要素が失われている子ども食堂もある。地域を歩き回るスタンプラリーは他の子ども食堂と比べても規模が小さいこどもカフェまんぷくならではの活動かもしれないが、今までの活動に囚われず、新たに居場所を感じられる活動を企画するチャンスでは無いと思う。それぞれの子ども食堂の特色を活かしたコロナ禍のつながりを構築する活動を模索していきたい。

## 名古屋市北区「ふれあい子ども食堂 たばたん」

### 2020年7月7日子ども食堂報告

2020/7/15 中京大学 成ゼミ 3年 c318079 藤本涼花

開催地：天理教忠愛分教会(田幡 2-10-9)



開催日時：毎月7の付く日 17:30~19:30

7月7日のメニュー：カレーライス、唐揚げ、パプリカの付け合わせ、カブの煮物



今回の大まかな流れ：会場準備→子ども見守り→七夕飾り→ごはん→食器洗い→七夕飾り→解散

7月7日(火)、ふれあい子ども食堂たばたんにボランティアとして初めて参加した。参加費は子ども100円、大人200円。メニューはカレーライスで固定だが、主菜や副菜が日によって変わるそうだ。今回の子ども食堂開催は久しぶりだったそう。完全予約制で、17:30~18:30は15名、18:30~19:30は会場を広げて30名ほどであった。コロナ状況下にある今はフードパントリーを月4回、弁当配布を月2、3回のペースで行っているそうだ。

私が16:30頃会場に着いたときには、食事はすでに出来上がっていた。スタッフさんと軽い自己紹介をしたのち会場準備にとりかかった。たばたんのスタッフは厳戒態勢で私含めて7人しかいなかった。顔ぶれは運営代表柴垣さんと奥様、お母様と地域サポーター2名と初参加のママさんだった。この日は「コロナに負けるな！星に願いを☆七夕イベント」ということで、私は会場準備として、七夕笹の設置のお手伝いをした。その後は柴垣さんのお

子さんと一緒に折り紙で笹装飾の星を折った。



サポーターは皆、マスクを付けこまめに手洗いする万全の体制で、17：30 から来てくれた利用者を招き入れた。利用者には会場に入る前に手を洗ってもらい、受付を済ませてから七夕飾りをしてもらう。そのあともう一度手を洗ってもらってからようやく食事提供、というのが一連の流れだ。私は、利用者に短冊を書いてもらい笹に結びつけてもらうという、誘導と補助をした。そのおかげで参加者のほとんどと会話をする機会を持てた。家族4人で来てくれた世帯もあれば、母子家庭や祖父と孫2人のところもあった。

18：00 からおつとめがはじまった。柴垣さんとお子さんたちが正装で祈念をしている様子を遠目で確認した時は、まさか柴垣さんが会長さんだとは知らず、驚いた。子ども食堂の利用者におつとめにも参加していた家庭もあった。

19：00 まで七夕の補助をしたのち、食事をいただいた。子どもたちに混じって談笑しながらの食事は、この上なく楽しいひと時だった。食器の片付けをしてから再度七夕飾りの誘導補助をし、柴垣さんとお話してから20：30 ごろ帰宅した。

今回の寄付にはパプリカとカブがあったそうだ。初参加のママさんも子ども用にとお菓子の寄付をしてくれた。それ以外の食材は実費だという。



地域サポーターの1人の方は、「普段はひとりぼっちで食事するが、たばたんではわいわいと食事ができる」と話してくれた。こうした地域の人の居場所としてもたばたんは機能していると分かった。子どもたちも楽しそうにしているのが目に見えて分かったし、私も子どもたちに囲まれて楽しい時間を過ごせた。柴垣さんからも、「子どもたちは学生がいると喜ぶ」と仰ってくれた。学生サポーターの存在価値についても見いだすことができた。

来月で1周年を迎えるこのたばたんは、社会福祉協議会からの紹介でやってくる利用者が多いそうだ。そのため、本当に困っている人をダイレクトに支援することができる。そして、柴垣さんがたばたんを通じて人の幸せのお手伝いをしたいという思いが根底にあることを知れた。実際にたばたんでは驚きも含め、貴重な経験をさせてもらうことができた。今後も是非学生サポーターとして関わらせていただきたい。



## 2020 年子ども食堂活動記録

植野航史

### 第 29 回西福寺おかげさま食堂参加報告（2 月 14 日）

今回のメニューは、塩麴の唐揚げ、切り干し大根の煮物、味噌汁、りんごと苺、チョコ（バレンタインのため）。

今回は参加者が多く、定員の 120 名を超えた。定員を超えたため断る方が出てくるほどの大盛況だった。参加者が多かった要因としては、唐揚げが人気だからではないかと考えていたが、当日のメニューは事前にお知らせしていないので、どこかで情報が漏れたのかと笑いながらおっしゃっていた。特に今回の塩麴の唐揚げは片栗粉も混ぜているため竜田揚げのような感じで冷めてもパサパサせず美味しかった。作り方を聞くお母さん方や美味しいと言ってくれる子どもたちも多く、唐揚げが人気な理由を実感した。また切り干し大根も好評で、おかわりが欲しいと言う声もあるくらいだった。



ボランティアは約 30 名+桜花高校の学生+東海連区児童教化連盟の方と多かった。学生は南山が約 15 名と中京が 2 人だった。東海連区児童教化連盟の方々は東海エリアのお寺関係の方々で構成されていて、三重県からお越しの方もいた。主にレクリエーションを担当されていて、ピンバッジ作りや輪投げ、スクリーンシアター？というお話のような出し物も企画していた。

今回私は、子どもたちとの触れ合いや、出し物をする方のサポートなどをするレクリエーションを担当した。レクリエーションの担当は初めてだったが、ピンバッジ作りをする場所にいたため子どもたちが自然と寄ってき、自分から触れ合いに行かなくても触れ合うことができた。また東海連区児童教化連盟の方ともお話することができ、楽しくレクリエーションを担当することができた。またレクリエーションを通して、改めて西福寺おかげさま食堂の参加者は小さい子どもたちが多いなと感じた。隣が幼稚園だということが一番の要因だと思うが、元気いっぱいの子どもたちと間近で触れ合える空間は西福寺おかげさま食堂ならではの空間ではないかと思う。18 時ごろからは子供たちも少なくなってきたので洗い物やフロアなど別の役割の方にも顔を出して手伝った。フロアには新たに加わった中尾ゼミの 2 年生の方がいた。そのため今回は中尾ゼミの 4 年、3 年、2 年と中尾ゼミが勢揃いしていた。





西福寺おかげさま食堂をよりよくするための新たな試みとして、席の空き具合をホワイトボードとマグネットを使って整理していた。以前までは、どこの部屋に何席空いたかは分かってもどの場所が空いているかや配置などは分からなかったため、ホワイトボードの導入により分かりやすくなっていた。居酒屋の空き具合を表すところからアイデアを得たらしい。しかし、案内担当は分かりやすくても、フロアはホワイトボードを使うことで連携の取りづらさを感じていたため、次回以降また改善していくとの事だった。

学生ボランティアの4年生はラスト西福寺おかげさま食堂だったので、次回以降から代替わりのような形になる。慣れない所や分からないこともあるかもしれないが頑張ってもらいたい。

## 西福寺おかげさま食堂参加報告 7月12日(金)

植野航史

場所：西福寺（荒畑駅から徒歩15分）

日時：毎月第2金曜日 17時～19時開催



お寺の住職さんが代表の子ども食堂。定員は120名で多くの子どもや保護者の方が足を運ぶ場であった。一連の流れとして、15時～ボランティア・スタッフミーティング→各持ち場に分かれて準備や役割の確認、参加者への対応で17時からの食事開始に備える→食事やお茶会、レクリエーション、アンケート→19時～片付け→ボランティア・スタッフの方々と食事→振り返りという流れだった。今回はボランティアやスタッフの方も多く、一人一人に役割を与えられての活動だった。私は16時から17時半までの前半は配膳担当、17時半から19時までの後半はレクリエーションの担当をした。

前半の配膳では、献立に合わせて料理担当の方が作って下さった料理をお皿に盛り付け、注文が入り次第その都度作るという流れで活動。今回は17時前から多くの方が来ていて、90名近くの方が集まっていたため、開始早々から作る量が多かったので大変だったが、スタッフの方や先輩ボランティアの方に教えてもらいながら作業をすることができた。また同じ配膳担当の中に南山大学の4年生の方がおり、就活が終わったので再び参加しに戻ってきたとのこと。西福寺はボランティアにとっても戻って来やすい明るい場所だとおっしゃっていた。



後半のレクリエーションでは主にレクリエーションを担当する団体の方のサポートや子どもが走り回って部屋から飛び出さないように見張る役割だった。しかしその役割をする事も無く、洗い物を任されてしまったので実際の担当は洗い物だった。洗い物は一つ一つ手洗いで洗浄機なども無かったので量が多く大変だったが、他のボランティアの方と分担したので効率よく作業を進めることができた。洗い物の担当場所にいたボランティアスタッフの方にお話を聞いたと



ころ、仕事が終わった後に毎回参加するため洗い物をする人が多いが、今回はボランティアの方が多いため作業がしやすく来てくれてありがたいとおっしゃっていた。その方は、直接子どもたちと触れ合ったりはできなくても何か子どもたちのためにしてあげたいから参加しているとおっしゃっており、仕事終わりに駆けつけて参加するボランティアスタッフの方の存在に驚いた。

活動前に代表の方に質問をさせていただいた。2年近くやってきて感じる事として、子ども食堂を始めるにあたって老若男女の方が集まる世代間交流の場を当初の願いとしていたが現状は子供や子育て世代が中心になっている。形は違っても、お母さん方や子供達の居場所になっているのであれば悪くないと感じているとのこと。やりがいに関しては、子供達が美味しく食べている様子やお母さん方からの感謝を告げられた時、周囲のお檀家さんの方から活動を褒められた時などに感じているという。課題としては、始めた当初に比べると人手や資金面、食料面などクリアされていることも多く、赤字になることは無くなった為、この活動を続けていくことが課題になるとおっしゃっていた。今後の目標は課題と同様に活動の継続で、続けることでこの場が成熟していけばいいと考えているとのこと。地域の中で第2金曜日がおかげさま食堂の日だと認知してもらえればいいと思っているとおっしゃっていた。

今回初めて西福寺おかげさま食堂に参加して、今まで参加したことのあるどの子ども食堂と比べても参加人数が多かったのが不安に思う事も多かったが、システムがしっかりしていたり、役割分担がしてあったりと効率よく回転率を上げる工夫や食事を待つ子どもを退屈させないアイデアがたくさんあり、2年間続けている経験や試行錯誤してきた結果の活動なのだと感じた。機会があればまた参加したいと思う。

## 意見交流の重要さ ～西福寺おかげさま食堂へ行って～

岸田彩里

2019年7月12日金曜日、私は名古屋市昭和区にある「西福寺おかげさま食堂」に参加した。理由は今まで参加者40人ほどの子ども食堂しかボランティアとして参加したことがなかった私にとって、こちらの子ども食堂は平均120人ほどの参加者が募ると聞き、大変興味を持ったためである。

はじめにおかげさま食堂で私が一番驚いたのは、ボランティアの役割分担が最初から決められていたことである。今までに参加した子ども食堂は役割分担など決められてはおらず、自分にできることを率先してやるが多かったため、役割分担を既に決められていることに新鮮味を感じた。そのボランティアの役割分担とは、受付・ホール・レクリエーション・配膳の合計4つである。私は前半配膳、後半レクリエーションという役割であった。

前半の配膳では、主にもう既に調理してある食材を器に盛りつけていくというものであった。この日のメニューは「ちらし寿司・ナスと大根の煮付け・スイカ・味噌汁」であり、味噌汁はホール担当の人がしてくれるため、私たち配膳は味噌汁以外のメニューを担当した。お皿に酢飯、のり、桜でんぶ、卵、キュウリの順に盛り付けてちらし寿司を完成させ、その上に煮付け、スイカを盛り付けるという作業である。私は卵、キュウリをのせる作業だけを担当し、運営の方々の手際の良さに悪戦苦闘していたが、「ゆっくりでいいよ!」「どこの大学なの?」などと多く話しかけてくれ、とても楽しかった。この優しさもおかげさま食堂が人気である理由の1つなのかなと思った。

配膳が終わると本来はレクリエーションの担当であったが、この日は「近くの高校のボランティア部の子たちでレクは人手が埋まっているから」と皿洗いを任された。洗い場の隣から度々出てくる子供たちの笑顔や度々聞こえてくる楽しそうに遊ぶ笑い声、「おいしかったー!!」という声にとっても癒された。

夜になり子供たちが全員いないことを確認し、運営の方達や私たちボランティアで提供した食事と同じものを食べた後の約30分間、反省会のようなものが行われ、成功したこと、失敗したこと、改善点などを出し合った。私が今まで参加してきた子ども食堂では反省会など無かったため、とても新鮮で同時にこの反省会があつてこそ子供たちが来なくなる子ども食堂を作り、多くの子供たちが参加する理由なのだと気づかされた。

私は今回の子ども食堂で、今自分たちは子供たちに何ができるのか、何をすべきなのかを自分の中だけで考えるのではなく、他の人とも意見交流すべきということを改めて感じることが出来た。この日は意見交流の中にあまり入ることができなかったので、次回はその中に入って子ども食堂についての理解を深めたい。

## 西福寺おかげさま食堂

山手一輝

7/12、西福寺おかげさま食堂にお邪魔した。大学生ボランティアも多い人数おり、更に高校生ボランティアの方もたくさんきていた。この子供食堂はお寺でやっており、食べに来る人も100人を超える人数で、どういう風に回してるのかすごく不思議であった。

実際ボランティアに参加してみると、自分が今まで参加してきた子供食堂とは大きく違って、それぞれボランティアの人達の役割を大きく分けてその仕事に専念していた。自分は最初の方は本堂の方で遊んでる子供の様子を見ていて、交代の時間になったら食事出来るフロアの片付けなどの仕事を任されていたが、人数が足りなくなった盛り付けと配膳の仕事に回った。

食事の時、他の食堂だと一斉にみんなで食べるが、ここでは番号札を配って、席が空いたら通すというような普通のレストランなどで採用される方法を取っていてとてもビックリした。

子供との触れ合いはなかなか上手く行かず、そこまで会話をしっかり出来ないまま交代の時間となってしまった。いつまで経っても初対面の子相手にどう話しかければいいか分からず、そのままやむやで終わってしまう。

食事の盛り付けや配膳に関しては指示された事をきっちりこなしていけば良いので対して苦でもなく、ある程度こなせた。いつもはもう少し人数が少なかったようだが、今回はボランティアの人数が多かったようでどこかが人数不足になる事なく仕事を進めて行くことが出来たようだった。

食事に関しては、今回はちらし寿司を用意してくれていて、普通のちらし寿司と違う点としてツナ缶を入れていたらしく、それが子供達にら好評だったらしい。普段酢飯を食べることが無い子がおかわりするほどだったそうだ。揚げ物が無かった分掃除がとても楽で、洗い物の苦勞がほぼなかったり、温かくなかちゃ美味しく無いようなものが少なかったおかげで、盛り付けのストックが出来、注文が来たらすぐに提供できるよう準備も出来て、回転が早かった。

他では出来ない経験をする事が出来て、西福寺おかげさま食堂での活動はとてもためになったと思う。

## 西福寺おかげさま食堂に参加して

安松亮

7月12日(金)に、私は西福寺おかげさま食堂に参加した。そこは幼稚園に隣接しており、幼稚園児が多かった。またボランティアは多く、大学生以外にも高校生もいて飽和状態となっていた。ボランティア内では受付、レクリエーション、案内、フロア、調理洗い場、配膳といった役割が分担されており各自分業体制で行われた。食事の準備が出来るまでは本殿で子どもたちと交流をした。参加者の多くが幼稚園児との親子連れであり人数の多さに驚いた。食事部屋は2つに別れているが一度に全員は食べることが出来ないため、時間を分けローテーションで食べ、各自で解散するシステムをとっていた。まるでお店のような回転率で多くの人 came。一人の参加者(大人)に子ども食堂へのイメージを聞いてみた。「最初は恵まれない子どもが行く場所と思っていた。今回初めて参加するとおかげさま食堂はアットホームな感じで行きやすかった。食事に関してはみんなで食べるというイメージだったので少し驚いた。本殿ではあんまり会話に馴染めていなかった。せっかく子ども食堂に参加したがあまり他の子どもとの交流が出来なかったのが少し残念だった。」と述べた。回転率を上げてたくさんの方がご飯を食べられる反面、見ず知らずの子どもたち同士の交流に関してはあまり力を入れることが出来ないのが現状だと今回の話を聞いてだと強く感じた。

またスタッフに子ども食堂の始めたきっかけについてインタビューをとった。「初めは孤独なご老人に焦点を当ててコミュニケーションをとる場としてこの食堂を始めたがいざやってみるとスタッフや子どもたちの圧に押されて帰っていく人が多かった。そこからというもの子どもを中心としてやっている。実際のところはご老人の孤独に対して向き合いたい。」と述べた。最初にご老人を救うために始めたことにとっても驚いた。運営者の意思を尊重するためにも対策が必要だと思った。自分の考えとしては子どもとご老人の食事の時間帯をずらすなどをすればゆっくりと食べることが出来るのではないかと思った。しかしスタッフの労力がこれまで以上に必要になる点があり難しい。この問題について考えていきたい。私自身もっと多くの子ども食堂に参加して役に立ちたいと思った。

## おばあちゃん達がもたらす雰囲気とは ～ひまわり邸子ども食堂に参加して～

C318029 岸田 彩里

私は2019年6月28日、豊田市にある「おばあちゃん家はひまわり邸食堂」という場所に初めて参加した。通常は老人ホームとして存在しているこの場所は、現在2か月に1回子ども食堂を主催している。多くの子ども食堂と違い、こちらの子ども食堂では高齢者の方々と触れ合えるというとても珍しいものである。

子ども食堂の代表の方へのインタビューが終わると、子ども食堂が行われる部屋に案内された。そこにはテーブルが7つあり、老人ホームの高齢者の方々は「職員が目が行き届きやすいように」との理由で部屋の真ん中の4つのテーブルに配置され、その日のボランティアは看護学校の方2名と私たち5名、計7人だったため、1人1つのテーブルを担当することができた。

そして私は真ん中の「八重子さん」という高齢者の方がいらっしゃるテーブルを担当した。八重子さんの他にも3歳と5歳の子を連れてお母さんや施設の方、私を含め計6人でそのテーブルを囲んだ。この日は七夕が近いということもあり、1人1枚短冊を渡された。八重子さんは短冊を渡されるや否や、子供たちや私に「何をお願いするの?」「○○か～」「叶うといいね～」などとても楽しそうに話しかけてくれた。八重子さんは終始笑顔で、何度も何度も「ほんとうに楽しい」「こんなの久しぶり」とつぶやいていた。

「こんなの久しぶり」という言葉の本当の意味は八重子さんにしかわからないことだが、同じ空間にいた私には分かるような気がした。八重子さんはきっと「同じ食卓を囲み、同じテーブルで楽しく話し、みんなで笑顔になる」という家族団らんの時間が久しぶりだったのではないだろうか。

このことから私は、高齢者の方々が子供たちや地域の方々と触れ合うことのできるという、いわば1つの「家族」ともいえるこの空間を「桜家族」と命名する。桜は春になりきれいな花が咲くと、人々はその桜を眺めようと桜の木に集まりお花見をする。桜が散って周りに誰もいなくなる時期があっても、桜の木という居場所は変わらず、春になり桜が咲けば、その木の周りに多くの人が集まる。これはこの「子ども食堂」にもいえることである。一度の『桜開花』を一度の『子ども食堂開催』と見立てると、ひまわり邸で子ども食堂が開催されるたびに常にその居場所にいる高齢者の方々の周りに地域の方や子供たち、そして私たちボランティアが集まる。そして和気あいあいとまるで家族の一場面かのような空間が生まれるのである。

このボランティアを通して、高齢者の方がいるという空間自体が場を和ませ、みんなが楽しく笑顔で過ごせるのだと気づかされた。私はこの空間や雰囲気がとても好きだったのでぜひ次回も参加したい。

## ボランティア活動記録

c 318090 山手一輝

おばあちゃんちは、ひまわり邸

6/28におばあちゃんちは、ひまわり邸食堂にお邪魔した。

大学生ボランティアは中京生5人の他に、2人ほど来ていた。老人ホームで行うものだったので、子どもだけではなく、老人の方も何名かいて、自分は老人の方が座るスペースを担当した。が、結局老人の方は一人しか座らず、施設で働いている方と、その娘さんが席に着いた。がんばって会話をしてみようと試みたが、なかなか会話が弾まず、何か質問しては途切れ、質問しては途切れと、なかなか上手くいかなかった。

食事の時には職員さんが2人ほど増えて、その方たちが中心になって話をしてくれていた。

その日のご飯はから揚げで、子どもが好むようなものに、バランスの考えられたスープやサラダがついてきていてとても美味しかった。

食事が終わった子は遊び始めていて、子どもの座るスペースを担当していた安松君が大人気で、特に男の子を中心に一緒に遊んでいた。

食事が終わった後にレクリエーションが用意されていた。大きな布に穴が開いており、布の上にボールをいくつも転がし、何人かで布の端を持って上げたり下げたりして布の穴の中に一番早く全てのボール入れたチームが勝つというゲームだった。自分は男の子がたくさんいるチームに入った。勝負事ということもあってか、みんなやる気満々で一生懸命取り組んでいた。

最後に、この食堂の毎回の恒例になっていたらしく、人間っていいなをみんなで歌い、ボランティア組は片付けをして解散した。

以前行った子ども食堂では、自由な時間が多く、もう少し子ども達ともお話することが出来たのだが、今回はそれが出来ず、残念だった。だが、老人の方々と子ども達が触れ合うという、なかなか他の施設にはない環境での体験が出来て、とてもおもしろかった。



## おばあちゃんちは、ひまわり邸食堂に参加して

安松亮

ここで私が実際に行った2つの子ども食堂について述べていく。私は6月28日(金)に豊田市にある、おばあちゃんちはひまわり邸食堂という子ども食堂に参加した。そこでは老人ホームを会場として子ども食堂を行っているため、子ども以外に親御さんやご老人、ボランティアである大学生といったさまざまな年代の人と交流が出来る場所であった。5~8人ほどのグループに別れて交流した。私の担当したグループでは、男子小学生のサッカー部が5人と、そのうちの1人の5歳の妹とその親であった。その小学生に来た理由について尋ねると親が老人ホームの職員であるため、よく来ると話した。他の小学生はその子に誘われて一緒に来たと述べた。そのなかには初めての参加の子も3度目の参加の子も存在した。何度も参加する理由については、①ごはんが美味しいから、②楽しいから、③友達に誘われたからである。

30分ほど話した後にご飯の準備が始まった。料理のメニューは唐揚げをメインとして副菜、コーンスープ、ご飯、プリンであった。食べ盛りな小学生高学年からすると物足りなそうにも感じたが、おかわりが用意してあり、食べ終わった者から取りに行けるスタイルを取っていて満足している様子であった。食事が終わると共同で行うレクリエーションが始まった。布に穴が空いておりボールを早く入れるというものだった。そこではこれまで関わることの出来なかつたご老人や小さな子どもとも交流を図ることが出来た。それからというもの見ず知らずの子ども同士ともジャレ合ったりして楽しそうに過ごしていた。最後にはみんなで歌を歌い会場が一体となったように感じた。

今回の子ども食堂を通して思ったこと。子ども食堂に対して少なからず貧しい人だけが行くと場所といったイメージを持つ人がいると足を運ばない。そのため今回の小学生のように友達と一緒に来ることで、子ども食堂に行くことの抵抗が減り同時に偏見も無くなっていくと思った。また異年代とのコミュニケーションを取る場所はあまりないためこのような場所を活用してほしいと感じた。疑問点としては、来るべき人が来れているのかという点である。もっと小学校などで呼び掛けて子ども食堂を知ってもらいたいと思った。